

福岡県宗像市で RESAS を活用した政策立案ワークショップを開催しました

令和3年12月
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進室
経済産業省九州経済産業局

福岡県宗像市にて、産業振興及び地方創生に携わる職員を中心に、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。

農業、水産業、観光業の産業分析の専門家である東京農業大学の堀田和彦氏の協力を得て、宗像市の地域産業における課題を抽出し、意見交換を行いました。これを通じて、宗像市の今後の産業政策の企画・立案の在り方を考える契機となりました。

記

1. テーマ：地域産業（農業・水産業・観光業）の高付加価値化に係る施策について
2. 日時：令和3年7月1日（木）10時00分～12時00分
3. 会場：宗像市会議室（オンライン）
4. 主催：宗像市
5. 参加者：
 - ・宗像市職員 15名
 - 産業振興部長
 - 商工観光課
 - 農業振興課
 - 水産振興課
 - 商工観光課産業政策室
 - ・東京農業大学 教授 堀田 和彦氏
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 4名
 - ・経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業調査室 2名
 - ・経済産業省九州経済産業局地域経済課 5名

合計 27 名

6. 議事次第

- ① 宗像市職員によるリーサス分析結果発表
- ② 有識者によるデータ分析と意見
- ③ 政策ディスカッション

(1) ワークショップ実施の背景

- 宗像市は、福岡市と北九州市の両政令指定都市の中間に位置し、北は玄界灘に面し、三方向を山に囲まれ、市中央を釣川が貫流する地理的条件であり、世界遺産を核として、歴史ある寺社や唐津街道の町並み、玄界灘の海の幸、さつき松原など、歴史、文化、食、自然といった観光資源に恵まれている。
- しかし、一次産業においては高齢化と新たな担い手不足に伴い、全体的に経営体数の減少が進んでいる。農山漁村の雇用の確保のため、農山漁村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出し、生産者の所得向上に結び付けることが重要である。
- このような背景を踏まえ、それぞれの産業の活性化を図りながら、産業間、事業者間での取引を促進し、域内の経済循環を促進するとともに、域内の取引で付加価値を高めた商品・サービスを域外に発信し、域外からの資金流入を増加させていく取り組みが求められる。
- このような問題意識のもと、地域の稼ぐ力を引き出し、持続可能な産業の確立を目指すべく、今後の宗像市のとるべき施策を検討するワークショップを開催した。

(2) 分析手法

- RESAS を用いて、人口推移、産業構造の特徴等を把握。
- 農業・漁業について、国、福岡県、及び類似自治体（福岡県糸島市他）と比較し、強み、弱みを把握。

(3) 宗像市の現状と課題

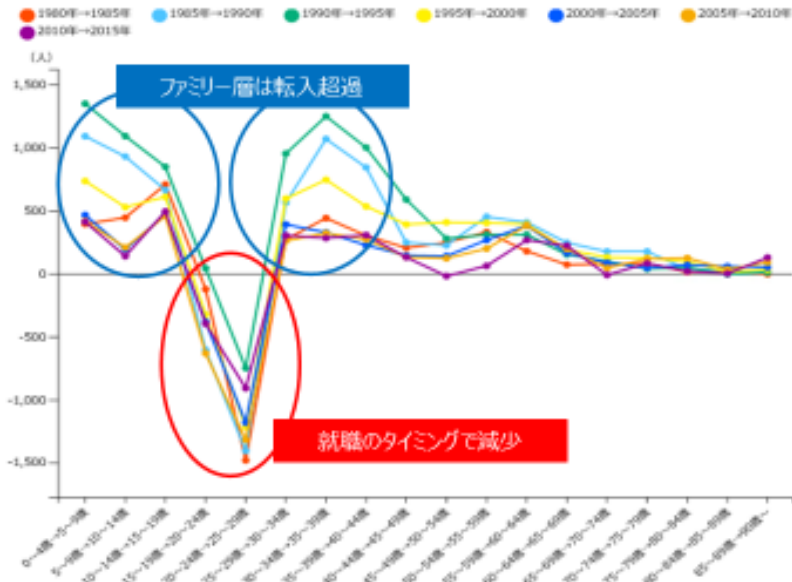
(人口減少等の現状)

- 宗像市の人口は、1980 年以降増加していたが、2020 年をピークに減少に転じる。96,516 人(2015 年)から 2045 年には 88,947 人と 7.8%減少すると推定されている。
- 宗像市には2つの大学が立地していることから就職のタイミングで人口が減少している。しかし、ファミリー層については順調に転入している。
- 福岡県内の市町村からの転入が多く、全体として転入超過となっている。転出先は、福岡市が最も多く、次いで隣接自治体である福津市となっている。
- 宗像市の目的地検索をみると、「宗像大社」が最も多く、次いで「道の駅むなか

た」が多い。福岡県内での比較においても、「宗像大社」は3番目、「道の駅むなかた」は13番目となっている。

年齢階級別純移動数の時系列分析

本市は2つの大学が立地していることから就職のタイミングで減少している。
しかしファミリー層については順調に転入している状況である。



【出典】RESAS(総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成)

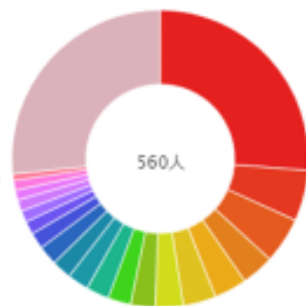
宗像市の人口-転入・転出

全体としては転入超過 (+54人) である。福岡県内の市町村からの転入が多く、内訳としては北九州が最も多い。一方、転出先は、福岡市が最も多く、横浜市、大阪市など首都圏も上位に位置する。

2019年
宗像市 転入転出状況
From-to (定住人口)

転入超過数内訳

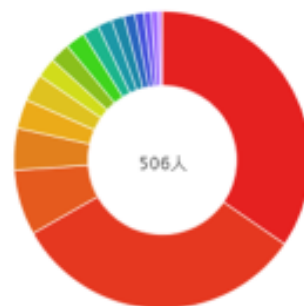
人数



- 1位 福岡県北九州市 147人 (26.25%)
- 2位 福岡県東海市 31人 (5.54%)
- 3位 福岡県北原市 28人 (5.00%)
- 4位 福岡県糟屋郡 28人 (5.00%)
- 4位 福岡県糟屋郡 28人 (5.00%)
- 4位 福岡県糟屋郡 28人 (5.00%)
- 7位 福岡県久留米市 17人 (3.04%)
- 8位 福岡県糟屋郡 15人 (2.68%)
- 9位 福岡県糟屋郡 14人 (2.50%)
- 9位 福岡県糟屋郡 14人 (2.50%)

転出超過数内訳

人数

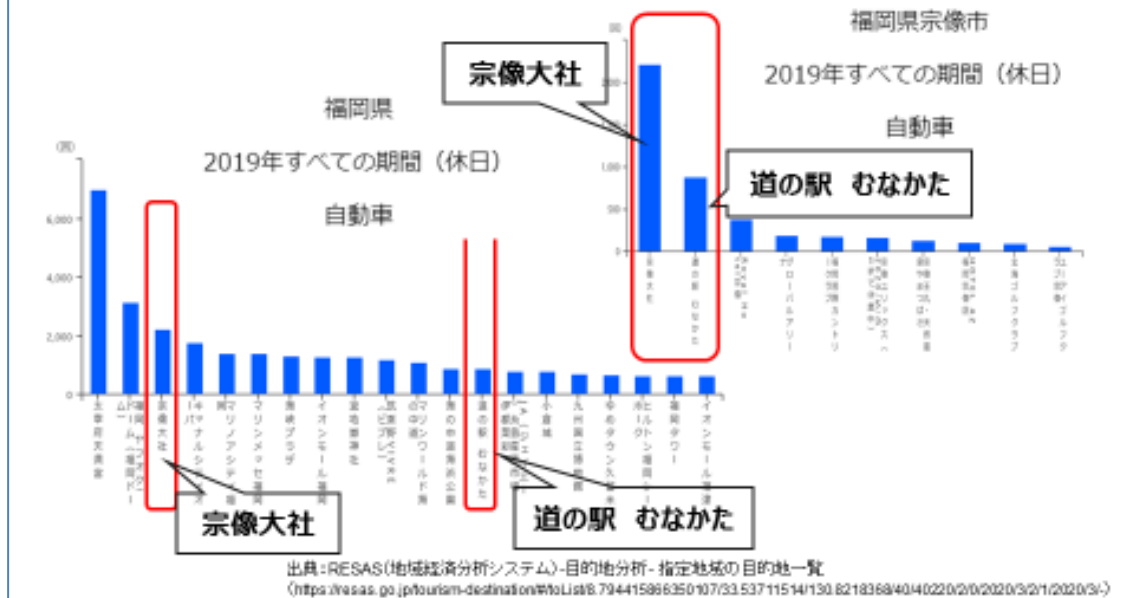


- 1位 福岡県福岡市 175人 (34.58%)
- 2位 福岡県福岡市 165人 (32.21%)
- 3位 福岡県福岡市 36人 (7.11%)
- 4位 福岡県糟屋郡 23人 (4.55%)
- 5位 福岡県糟屋郡 16人 (3.16%)
- 6位 福岡県糟屋郡 15人 (2.96%)
- 7位 福岡県糟屋郡 11人 (2.17%)
- 7位 福岡県糟屋郡 11人 (2.17%)
- 7位 福岡県糟屋郡 11人 (2.17%)
- 10位 福岡県糟屋郡 9人 (1.78%)

出典:RESAS(地域経済分析システム)-人口の社会増減-(<https://resas.go.jp/population/summary.html?to=2019&from=2015&pref=43&city=2020&age=2020&sex=2020&type=101>)

宗像市の目的地検索ランキング

域外からの消費流入は少ない、つまり観光客からの所得は少ない。しかし宗像市観光入込客数はH30年度約500万人、道の駅むなかた利用者数は令和元年度約160万人であり、決して少なくない。宗像市の目的地検索をみると、「宗像大社」が最も多く、次いで「道の駅むなかた」が多い。福岡県内での比較においても、「宗像大社」は3番目、「道の駅むなかた」は13番目に多い。



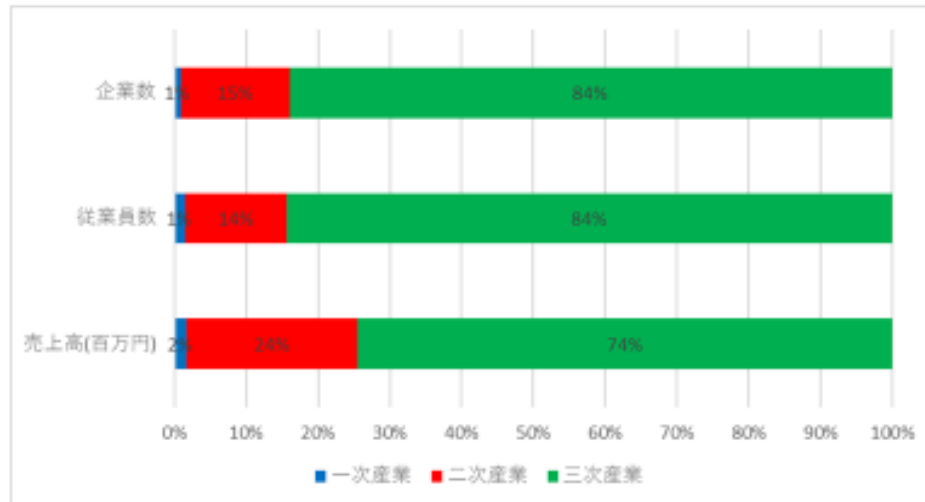
（農業・漁業の現状と課題）

- 宗像市の産業については、企業数、従業員数、売上高の各指標で三次産業の割合が最も高い。一次産業の割合は各指標で約1%と低い。
- 品目別農業産出額については米の割合が高く、米・野菜・肉用牛で全体の約8割を占めている。
- 水産業や農業は特化係数が高いものの、域外からの所得を獲得できておらず、農業に関しては域外に所得が流出している。
- 65歳以上の農業従事者の割合が増加しており、県平均を上回っている。2005年から2015年への変化率をみると、65歳以上が6.8ポイント増加。県、全国と比較しても変化率が高く、高齢化が進んでいる。
- 漁業従業者の年齢構成は、県、全国と比較すると若年層の割合が多いものの、65歳以上の割合が増加している。（65歳以上の割合 2008年：21%、2018年：29%）

宗像市産業構成(産業分類)

企業数、従業員数、売上高の各指標で三次産業の割合が最も高い。
一次産業の割合は各指標で約1%。

2016年宗像市産業別分類

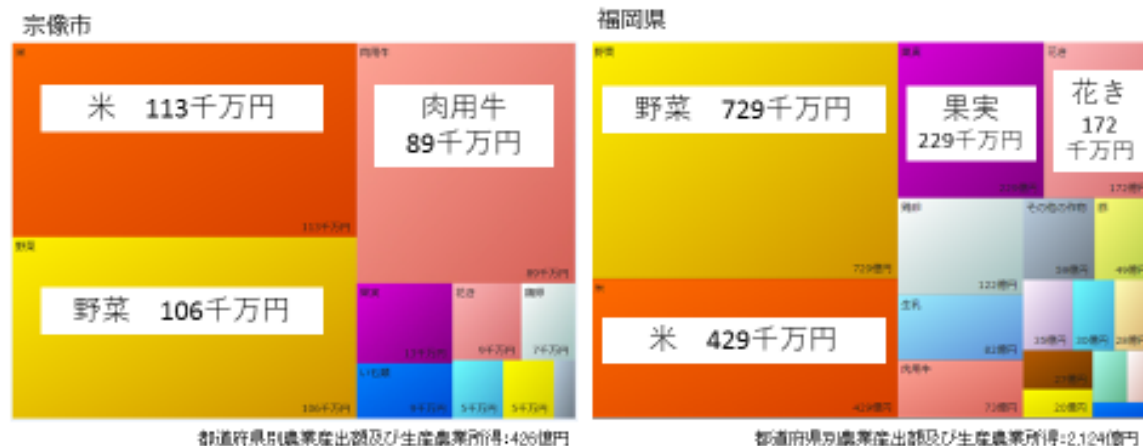


【出典】RESAS(総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、
総務省-経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)

宗像市の農業

品目別 農業産出額については米の割合が高く、米・野菜・肉用牛で全体の約8割を占めていることがわかる。
一方、福岡県をみると野菜、米、果実、花きで全体の約8割を占める。

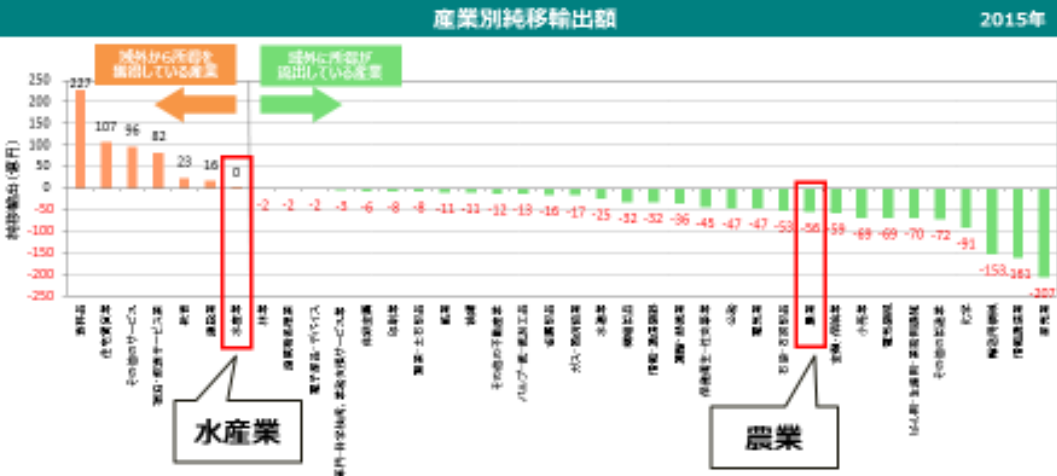
品目別 農業産出額 (2018年)



出典:RESAS(地域経済分析システム)-産業構造マップ-農業構造
<https://resas.go.jp/agriculture-akn#portfolio/5.33390073655343741.42090017812787142.29371418128918484402208/2018/14/3>

域外から所得を獲得している産業は何か—宗像市

食料品、住宅賃貸業、その他サービス業などが域外に財・サービスを販売して所得を獲得している。食料品業は宗像市が2番目に得意とする産業であり、域外からの所得も稼いでいるため、強みを活かして所得を稼ぐことに成功していると言える。



水産業や農業は特化係数が高いものの、域外からの所得を獲得できておらず、農業に関しては域外に所得が流出している

出典：環境省株式会社価値総合研究所「令和元年版地域経済循環分析の発展推進委託業務地域経済循環分析の手引書Ver3.1」

(4) 有識者による分析

- 宗像市は、福岡市、北九州市からの典型的な日帰りスポット。宗像大社と道の駅むなかたは、非常に多くの人があるが、まだ少ないのではないかと。海浜コース等、宗像市自体をもっと見て回るといったことを考えると、もっと良いのではないかと。
- 現代の若い人は、SNSや雑誌などをみて遊びに行く。インスタ映えする景観があればどこにでも行く。宗像市は宗像大社のみならず、海岸線が非常に美しく、恵まれた自然資源は豊富であり、こうしたインスタ映えする場所をもっとPRできないかと。地元の美しいところ、映え景観を発見する、開発するという発想があっても良いのではないかと。
- 農業生産は米が中心だが、特筆すべきは肉用牛生産額が福岡県の中で相対的に多いこと。宗像市といえば安くておいしい肉やアナゴ丼が食べられるとかいったイメージを作ることを地域の飲食店と連携してできないか。生産者自らするのは難しいので、地域の飲食店と連携することで観光との連携も深まる。
- 観光農園について、家族層の潜在ニーズはかなりあるはず。宗像市として観光農園プラス半農半Xを支援する自治体としてアピールしてはどうか。東京周辺では同様の取組が多く見られており、福岡県から東京に出て、福岡県に戻りたいと考えている人にアピールする、ということも考えられる。高齢の農業就業者の方々に野菜作りのコーチになってもらい、体験農園の整備を積極的に進められてはどうか。転

入転出の理由では転職・転勤が多く、福岡市等近隣からの流入だけでなく、関東、関西からの子供連れ家族の転勤者などを対象とした定住促進にもつながるのではないか。

(5) 質疑応答・ディスカッション・解決策の検討

- 糸島市と比較しているが、糸島市の良い点等を聞きに行くなど、情報収集すると、色々な発見があると思う。
- 実施の担い手を誰にするのかをある程度想定してフォーメーションしていくことが大事である。
- まずは地元の食材を直売所経由で学校給食へ供給することから始めるというものがあるのでは。食材の提供についても、すべての野菜ではなく、分散せずに集中していくのが良いのではないか。
- 観光農園、体験農園とかなかなか難しいである。すすき牧場のようにブランディング途上であるが、知っている人は知っている牧場も市内には存在しており、まずは農家に視察に行くところから始めるのが大事ではないか。家族層の注目が集まれば、より回遊してもらえらるだろう。
- 若手中心となり現場に落とししていく。インスタ等の件は具現化する。

(6) 宗像市による政策提案

① 持続可能な一次産業の確立

世界遺産、農業、水産業、及び体験による宗像市の魅力を発信するとともに、体験を通じた産業の高付加価値化による一次産業の所得向上、担い手の育成を図る。

- ・ 宗像でやってみタイ（農業体験）
- ・ 宗像に住んでみタイ（ワーケーション）
- ・ 宗像を届けタイ（宗像 BOX）

事業内容と目標

● 宗像でやってみタイ(農業体験)

【概要】

- ・畜産、農業等の一次産業や産業体験等の50の体験メニューを立案
- ・世界遺産都市ならではの体験

【目的】

- ・一次産業などに触れるきっかけづくり
- ・一次産業従事者の所得の向上

【時間軸】

・日帰り

【ターゲット】

- ・ファミリー層、アクティブシニア
- ・地域の産業に興味のある人
- ・非日常を楽しみたい方
- ・修学旅行、体験学習



● 宗像に住んでみタイ(ワーケーション)

【概要】

- ・漁業、農業体験をワーケーションとクロス
- ・体験を通して域外から担い手を取り込む
- ・みあれ祭への参加等、世界遺産とクロス

【目的】

- ・一次産業従事者数の増加・世代交代
- ・一次産業従事者の所得の向上
- ・体験を通して宗像の魅力発信

【時間軸】

・一定期間

【ターゲット】

- ・働き世代
- ・一次産業に従事してみたいと思っている方
- ・Uターンを検討している方
- ・独立(副業)を検討している方



● 宗像をどけタイ(宗像BOX)

【概要】

- ・宗像の農林水産、商工業のBOX
- ・料理教室、レシピ動画と連携
- ・体験農業の収穫物を調理交ぜる
- ・宗像大社への献上品を含める
- ・体験との連携による高付加価値化

【目的】

- ・一次産業従事者の所得の向上
- ・宗像ファン獲得

【ターゲット】

- ・地域食材に興味のある層
- ・非接触での商品購入を希望する方
- ・ミールキットを希望する層
- ・魚焼きから調理したい等、料理に拘る方



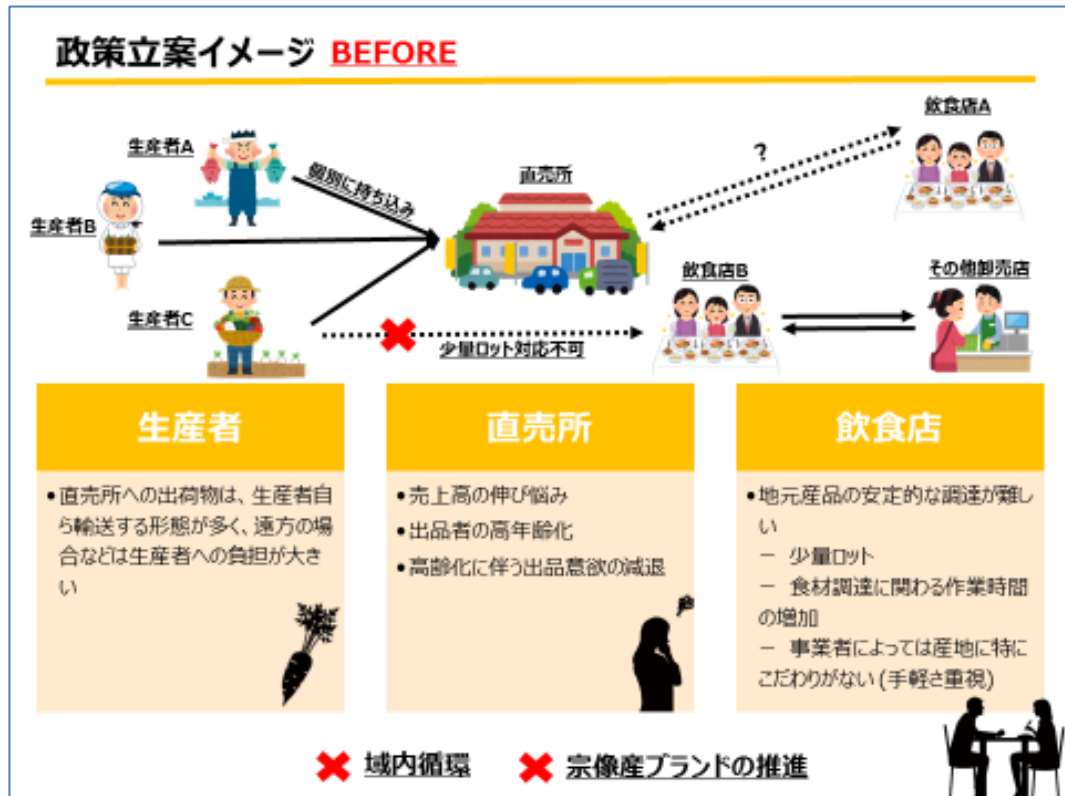
世界遺産×産業×体験による宗像の魅力発信

体験を通じた産業の高付加価値化

高付加価値化による一次産業の所得向上
一次産業の担い手を育成

② 地域産品の高付加価値化にともなう消費の拡大

宗像市内の直売所に出品されている農水産物を飲食店等に直接配送する仕組みを構築し、宗像産農水産物の活用促進と宗像産PRの拡充を図る。





政策立案イメージ AFTER

